

令和7年度 板野中学校 教育DX推進事業Ⅲの取り組み

SAMR モデル M 段階の事例について

今年度、板野中学校理科部会では1つの単元をひとまとまりとして、指導と評価の一体化を目指した取り組みを行っている。本実践のキーワードは「単元のゴール」「サイエンスマップ」「章末レポート」である。

「単元のゴール」：その単元を学習し終わったときに身に付けてほしい知識や技能。

（例：2年生 生命3章「動物の体のつくりとはたらき」の単元のゴール「血液の循環するしくみについて説明することができる」など）

「サイエンスマップ」：毎時間の授業の振り返りを行う。単元のゴールを記している。

「章末レポート」：「単元のゴール」について説明するためのレポート課題であり、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」の2項目について評価する。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準はどのレポートでも一律であり、生徒には4月の授業開きで説明している。「思考・判断・表現」の評価規準はレポート毎に設定しており、レポート用紙の右下に記載している。（A・B・Cの3段階）

【学習の流れ】

単元の学習がスタートする際に、「サイエンスマップ」を Metamoji Classroom 上で配信し、「単元のゴール」について説明する。それと同時に「章末レポート」も Metamoji Classroom 上で配信しておく。単元の学習がスタートする際に「章末レポート」も配信しておくことで、生徒は自分が「単元のゴール」について理解し、まとめることができると感じたタイミングで「章末レポート」を書き始めることができるとともに、常に「単元のゴール」を意識しながら、学習に取り組むことができると考えている。その結果、生徒が自己調整しながら、学習を進めていくことができる。

評価はA・B・Cの3段階で行い、A評価に届かないときには、評価とともにその理由を記述し、生徒に伝える。

【成果と課題】

多くの生徒はレポートの回数を重ねるごとに、「単元のゴール」および評価規準の要点をつかみ、A評価を獲得できる機会が増えてきた。また、自分で「単元のゴール」についてまとめることで、学習内容についての理解が深まっているように感じる。

課題としては「単元のゴール」や評価規準の設定が難しい点である。単元によってはおさえておきたい内容が複数あるものもあり、「単元のゴール」の設定が難しいと感じる部分もあった。「単元のゴール」やレポートの評価規準の設定がこの取り組みの肝であるので、理科部会でも協議し、よりよいものを模索していきたい。